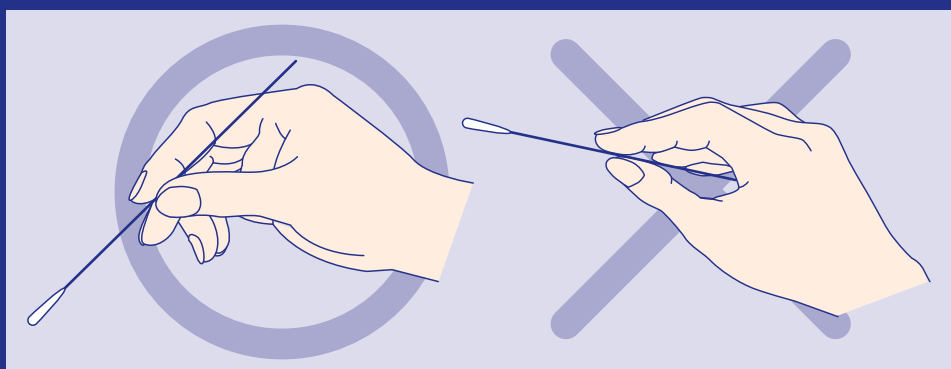


鼻咽頭における検体採取方法



スワブの持ち方

スワブはペンを持つような持ち方で、軽い抵抗でも滑るような強さで持つ(親指と人差し指で軽く挟む)。

検体採取の姿勢

1. 成人は坐位、乳幼児は仰臥位が最適である。
2. 乳幼児は、仰臥位に不安を感じる時があるため、状況に応じ介助者が前に抱いて固定する。
3. 年長児でも、坐位では挿入時に手で払いのけたり、頭を後方に反らす時があるため、仰臥位が良い。仰臥位の固定は、介助者が両手首を持ち拳上させながら(バンザイの姿勢)、両側頭部を押さえる(足をバタバタさせる時は、膝の上を押さえ固定)。
4. はじめにしっかりと固定することが苦痛を最小にする。

1 鼻腔吸引液の採取法

吸引トラップの片方の部分を吸引ポンプに、もう片方のチューブを図のように鼻腔の最奥部までしっかりと挿入し、吸引ポンプを陰圧にして鼻咽頭分泌液を採取する。挿入の際、鼻腔拭い液採取時と同様に鼻腔口から耳孔を結ぶ平面を想定して挿入すると挿入しやすい。

監修：川崎市立川崎病院 院長 武内可尚

乳幼児に最適



2 鼻腔拭い液の採取法

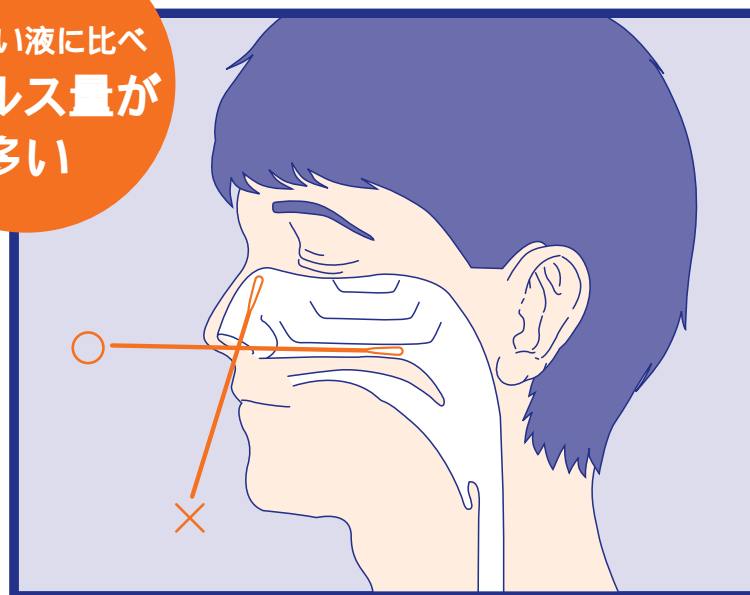
図のように外鼻孔から耳孔を結ぶ線を想定し、正面から鼻腔底に沿って適当な深さに(乳児は4cm、幼児4cm~5cm、学童5~6cm)静かに垂直に挿入し、行き止まりの最奥部(上咽頭)の数mm手前で止める。数秒間そのままの位置で手を離し、鼻汁を浸透させる。この時、「今、鼻汁を綿に吸わせているので少し我慢してね」などと話しかけ、状況説明とストレスを緩和させる。その後、鼻粘膜壁を軽く擦り、スワブを回転させながら(ゆっくり)引き抜く。スワブはしなやかに曲がるくらいのものを使用する。

注意1 挿入時はスワブを回転させたり、擦らないように注意する。

注意2 暴れている時は、素早くスワブを持った手を離し、静止するまで待つ。鼻粘膜を損傷し鼻出血を起こす原因になるので、決して無理に挿入しない。

監修：高崎小児科医院 院長 高崎好生

咽頭拭い液に比べウイルス量が多い



3 咽頭拭い液の採取法

スワブを口腔から咽頭に挿入し、咽頭全体(咽頭後壁、口蓋、扁桃)をしっかりと数回擦過する。この時、口蓋垂を跳ね上げるようにして後ろの上咽頭まで拭うのが理想的である。

監修：原土井病院 臨床研究部部長 池松秀之

鼻咽頭分泌液が少ない高齢者に最適

